

編集委員 大槻 健郎, 刈部 博, 川村 昌司, 佐藤 博俊, 佐野 博高,
田島 悠太, 山科 順裕, 山本 譲司, 小野由美子, 坂元健太郎,
佐々木麻友, 高橋 拓也, 堀内 論, 森 亮介, 若月 悠
査読委員 遠藤 薫, 近田 祐介, 渋谷 里絵, 鈴木 範明, 中村 崇宣,
八田 益充, 福田かおり, 藤原 幾磨, 山本 多恵

編集後記

仙台市立病院医学雑誌第43巻をお届けいたします。本巻では原著3編、症例報告3編の計6編を掲載しております。本巻に掲載されている論文は2023年5月31日までに投稿されたものですから、実質コロナ禍の中で執筆された力作揃いです。本誌を刊行できる環境を提供していただいた皆様に感謝いたしますとともに、学術活動をたゆまず続けておられる先生方にあらためて敬意を表したいと存じます。

そのコロナ禍の3年間からもようやく解放され、学会活動は従来の現地参加に加えて、コロナ禍の苦し紛れの中でオンライン参加もだいぶ浸透し、以前にも増して活発化しているように思います。学会活動が活発化すると、当然のことながら著述活動も活発化し、おそらく世の中の投稿論文数は上昇の一途を辿っていることでしょう。ただし、ご注意あれ。投稿論文数は増えても、その受け皿となる権威ある医学雑誌は増えないので、掲載論文数はそうは増えないはずで、ところが、現実には雑誌掲載論文数は増え続けています。理由のひとつは、いわゆるハゲタカジャーナルの存在です。ハゲタカジャーナルとは法外な掲載料を支払いさえすれば論文を掲載する悪質な雑誌のことです。実際に掲載されている論文は粗悪で信頼性の低いものが多いのですが、世の中には「自分の業績を増やすため」あるいは「学位取得のため」に大枚払ってでも雑誌に論文を掲載したいと思っている人たちが一定数存在するので、ハゲタカジャーナルは増え続けています。ハゲタカジャーナルへの掲載歴があると、科学者としての信用が貶められる危険がありますし、権威ある雑誌では不受理となることもあるようですから、十分ご注意くださいと思います。

ハゲタカジャーナルにひっかからないようにするには、権威ある雑誌に掲載してもらえよう論文を書く力を身につけるのが最も正当な方法です。研修医・若手の先生方には、本誌への投稿を通じて、近い将来経験する博士号研究・論文作成の腕を磨いていただきたいと思います。

(刈部 博)

仙台市立病院医学雑誌

Vol. 43 2023

令和6年1月31日 発行

発行所 仙台市立病院

仙台市太白区あすと長町 1-1-1

TEL 022 (308) 7111

発行者 奥田光崇

笹氣出版印刷株式会社 組版